

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	池上学院グローバルアカデミー専門学校
設置者名	学校法人 池上学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業分野 専門課程	情報システム科	夜・通信	612 時間	160 時間	
	研究科	夜・通信	204 時間	80 時間	
文化・教養分野 専門課程	総合ゲーム学科	夜・通信	612 時間	160 時間	
	社会生活学科	夜・通信	272 時間	160 時間	
	社会生活専攻科	夜・通信	136 時間	80 時間	
医療分野	音楽療法学科3年制	夜・通信	2,924 時間	240 時間	
	音楽療法士・セラピスト養成学科	夜・通信	2,142 時間	160 時間	
(備考)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.iga.ac.jp ホームページにて公開

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	池上学院グローバルアカデミー専門学校
設置者名	学校法人 池上学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.iga.ac.jp ホームページにて公開

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	医療法人タナカメディカル札幌田中病院 理事長	2021.12.24 ～ 2023.12.23	心身のケアに関する学生への指導等の助言
非常勤	学校法人 札幌いずみ幼稚園 理事長	2021.12.24 ～ 2023.12.23	教職員指導等における助言
非常勤	元札幌国際大学 教授	2021.12.24 ～ 2023.12.23	高大連携等の推進の助言
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	学校法人 池上学園
設置者名	池上学院グローバルアカデミー専門学校

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業科目については、シラバスに「授業の目的」「各回のテーマ、授業内容を明記した授業計画」「関連科目及び注意」「成績評価の方法」「教科書・問題集」「受講上の注意事項」の項を設け、学内サーバー・ホームページにおいて、本学生及び一般の方も閲覧できるように公表する。</p> <p>また、シラバスには学期が始まる前にその授業科目の教育目標を提示する。各教員がシラバスを適正に作成しているかどうかについては、教務部でチェックを行い、校長に報告する形にしている。</p>	
授業計画書の公表方法	学内サーバー、ホームページ https://www.iga.ac.jp
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>池上学院グローバルアカデミー専門学校学則に則り、授業科目の学習成果について、厳正なる評価を行っている。原則として全授業時間数の 2/3 以上出席した科目(科目によっては 3/4 以上)についてのみ、定時試験を受験することができる。成績評価については授業科目のシラバスに明記するとともに、授業中にも学生に告知している。それに基づき教員が評価を行っている。年に2回、成績会議を開き、職員全体で適正に評価されているかどうかを確認する。卒業及び進級については、学則に従い、卒業要件、進級要件を満たしているかどうか、3月に実施される卒業・進級判定会議にて確認し、校長が卒業・進級を認定する。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
 客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)
 各教科の成績評価は定期試験にレポート・課題提出作品・出席率により算出され、
 下記成績評価を5段階でA～E評価する。それぞれの段階に対して「4.0」「3.0」
 「2.0」「1.0」「0.0」のGPを付与する。

令和3年度における各学科の成績分布状況

情報システム科		1 学年 学生数 3 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	GP	4	3	2	1	0
	人数	2	1	0	0	0
備考欄	下位 1/4 に該当する人数：1 名 下位 1/4 に該当する指標の数値：2.8 ※学生数が4名以下であることに注意					

情報システム科		2 学年 学生数 7 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	GP	4	3	2	1	0
	人数	4	1	2	0	0
備考欄	下位 1/4 に該当する人数：2 名 下位 1/4 に該当する指標の数値：2.3					

研究科		1 学年 学生数 0 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	GP	4	3	2	1	0
	人数	0	0	0	0	0
備考欄	※在籍者なし					

総合ゲーム学科		1 学年 学生数 0 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	0	0	0	0	0
備考欄	在籍者なし					
総合ゲーム学科		2 学年 学生数 0 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	0	0	0	0	0
備考欄	※在籍者なし					
社会生活学科		1 学年 学生数 5 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	5	0	0	0	0
備考欄	下位 1 / 4 に該当する人数 : 1 名 下位 1 / 4 に該当する指標の数値 : 3.5					
社会生活学科		2 学年 学生数 2 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	2	0	0	0	0
備考欄	下位 1 / 4 に該当する人数 : 1 名 下位 1 / 4 に該当する指標の数値 : 3.5 ※学生数が 4 名以下であることに注意					
社会生活専攻科		1 学年 学生数 0 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	0	0	0	0	0
備考欄	※在籍者なし					

音楽療法学科 3年制		1 学年 学生数 0 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	0	0	0	0	1
備考欄	※在籍者なし					
音楽療法学科 3年制		2 学年 学生数 0 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	0	0	0	0	0
備考欄	※在籍者なし					
音楽療法学科 3年制		3 学年 学生数 1 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	1	0	0	0	0
備考欄	下位 1 / 4 に該当する人数 : 1 名 下記 1 / 4 に該当する指標の数値 : 4.0 ※学生数が 4 名以下であることに注意					
音楽療法士・セラピスト養成学科科		1 学年 学生数 0 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	0	0	0	0	0
備考欄	※在籍者なし					
音楽療法士・セラピスト養成学科科		2 学年 学生数 0 人				
成績分布	評定	A (合格)	B (合格)	C (合格)	D (不合格)	E (不合格)
	評点	100～85	84～70	69～60	59～40	39 以下
	G P	4	3	2	1	0
	人数	0	0	0	0	0
備考欄	※在籍者なし					
客観的な指標の算出方法の公表方法		https://www.iga.ac.jp ホームページにより公開				
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。						

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)	
本校の定める教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められ、所定の修業年限以上在学し、課程を修了したものには、卒業判定会議をへて校長が修了または卒業を認定する。	
また、情報システム科、総合ゲーム学科、音楽療法学科3年制、音楽療法士・セラピスト養成学科、社会生活学科を修了したものは、専門士（工業、医療、文化・教養専門課程）の称号を授与する。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.iga.ac.jp ホームページにて公開

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	池上学院グローバルアカデミー専門学校
設置者名	学校法人 池上学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.iga.ac.jp ホームページにて公開
収支計算書又は損益計算書	同
財産目録	同
事業報告書	同
監事による監査報告（書）	同

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業		専門課程	情報システム科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	2,040 単位時間	408 単位時間	1,870 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			2,278 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
20人		5人	0人	9人	8人	17人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
（概要）
・授業科目については、シラバスに「授業の目的」「各回のテーマ、授業内容を明記した授業計画」「関連科目及び注意」「成績評価の方法」「教科書・問題集」「受講上の注意事項」の項を設け、学内サーバー・ホームページにおいて、本学生及び一般の方も閲覧できるように公表する。
・シラバスには学期が始まる前にその授業科目の教育目標を提示する。

各教員がシラバスを適正に作成しているかどうかについては、教務部でチェックを行い、副校長に報告する形にしている。

成績評価の基準・方法

(概要)

- 1.成績の評価は、試験の成績と平常の学習状況を総合して行う。
この場合、試験の得点を70%に、また平常の学習状況を30%として100点満点で評価する。
- 2.試験終了後に補講授業を受講し、課題を提出することにより評価に加点することが出来る。ただし、この場合の評定はCとする。
- 3.平常の学習状況は、臨時試験の成績、実習の成績、出席の状況及び平素の学習態度を総合して行う。
- 4.各科目の評価は、おおむね次の基準で評定する。
100点から85点まで 評定A 高い程度に学習目標を達成し、平素の成績が優秀なもの
84点から70点まで 評定B 学習目標を達成し、平素の成績が優良なもの
69点から60点まで 評定C おおむね学習目標を達成し、平素の成績が良好なもの
59点から40点まで 評定D 学習目標の達成の度合いが不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの
39点以下 評定E 学習目標の達成の度合いが著しく不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの
- 5.評定は、各期の終わりに行う。ただし、通年で履修する科目は、前期終了時に中間評定を行い、後期終了時に中間評定と後期評価を総合してその科目の評定とする。
- 6.各期の成績は、保護者または保証人へ通知する。

卒業・進級の認定基準

(概要) 本校の定める教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められ、所定の修業年限以上在学し、課程を修了したものには、卒業判定会議をへて校長が卒業を認定する。
また、卒業の認定した者は、専門士としての称号を授与する。

学修支援等

(概要)
入学前面談（三者面談）を実施し、入学後の指導に役立てる。
入学後についても、三者面談を実施し、家庭と一緒に学生を育てていく。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） 情報システム科

令和3年度

卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
7人 (100.0%)	1人 (14.2%)	3人 (42.9%)	3人 (42.9%)

(主な就職、業界等)
株式会社OMH、就労継続支援A型事業所ビーグル、研究科へ進学など

(就職指導内容)
三者面談、個人面談、求人票紹介、就職活動指導など

(主な学修成果 (資格・検定等)) 基本情報処理技術者、ワープロ検定、表計算検定など
(備考) (任意記載事項) その他は、就労移行支援事業所など。

中途退学の現状 情報システム科		
令和3年度当初在学者数	令和3年度の途中における退学者の数	中退率
10人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由) ・中途退学者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人面談、保護者面談の実施。日常から学生とコミュニケーションを取っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
工業分野		専門課程	研究科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1,020 単位時間	816 単位時間	272 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			1,088 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10人		1人	0人	9人	8人	17人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) ・授業科目については、シラバスに「授業の目的」「各回のテーマ、授業内容を明記した授業計画」「関連科目及び注意」「成績評価の方法」「教科書・問題集」「受講上の注意事項」の項を設け、学内サーバー・ホームページにおいて、本学生及び一般の方も閲覧できるように公表する。 ・シラバスには学期が始まる前にその授業科目の教育目標を提示する。 各教員がシラバスを適正に作成しているかどうかについては、教務部でチェックを行い、副校長に報告する形にしている。
成績評価の基準・方法
(概要) 1.成績の評価は、試験の成績と平常の学習状況を総合して行う。 この場合、試験の得点を70%に、また平常の学習状況を30%として100点満点で評価する。 2.試験終了後に補講授業を受講し、課題を提出することにより評価に加点することが出来る。ただし、この場合の評定はCとする。 3.平常の学習状況は、臨時試験の成績、実習の成績、出席の状況及び平素の学習態度を総合して行う。 4.各科目の評価は、おおむね次の基準で評定する。 100点から85点まで 評定A 高い程度に学習目標を達成し、平素の成績が優秀なもの 84点から70点まで 評定B 学習目標を達成し、平素の成績が優良なもの 69点から60点まで 評定C おおむね学習目標を達成し、平素の成績が良好なもの

<p>59点から40点まで 評定D 学習目標の達成の度合いが不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの</p> <p>39点以下 評定E 学習目標の達成の度合いが著しく不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの</p> <p>5.評定は、各期の終わりに行う。ただし、通年で履修する科目は、前期終了時に中間評定を行い、後期終了時に中間評定と後期評価を総合してその科目の評定とする。</p> <p>6.各期の成績は、保護者または保証人へ通知する。</p>			
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 本校の定める教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められ、所定の修業年限以上在学し、課程を修了したものには、卒業判定会議をへて校長が修了を認定する。</p>			
<p>学修支援等</p> <p>(概要)</p> <p>入学前面談(三者面談)を実施し、入学後の指導に役立てる。</p> <p>入学後についても、三者面談を実施し、家庭と一緒に学生を育てていく。</p>			
<p>卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載) 研究科</p>			
<p>令和3年度</p>			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
<p>(主な就職、業界等)</p> <p>ソフトウェア業界など</p>			
<p>(就職指導内容)</p> <p>三者面談、個人面談、求人票紹介、就職活動指導など</p>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等))</p> <p>基本情報処理技術者、応用情報処理技術者、介護初任者研修、ワープロ、表計算など</p>			
<p>(備考)(任意記載事項)</p> <p>卒業生なし</p>			

<p>中途退学の現状 研究科</p>		
令和3年度当初在学者数	令和3年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0.0%
<p>(中途退学の主な理由)</p> <p>中途退学者なし</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組)</p> <p>本人面談、保護者面談の実施。日常から学生とコミュニケーションを取っている。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
文化・教養		専門課程	社会生活学科	○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	2,040 単位時間	408 単位時間		1,904 単位時間	
			2,312 単位時間			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
20人		8人	0人	9人	8人	17人

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目については、シラバスに「授業の目的」「各回のテーマ、授業内容を明記した授業計画」「関連科目及び注意」「成績評価の方法」「教科書・問題集」「受講上の注意事項」の項を設け、学内サーバー・ホームページにおいて、本学生及び一般の方も閲覧できるように公表する。 ・シラバスには学期が始まる前にその授業科目の教育目標を提示する。 <p>各教員がシラバスを適正に作成しているかどうかについては、教務部でチェックを行い、副校長に報告する形にしている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.成績の評価は、試験の成績と平常の学習状況を総合して行う。 この場合、試験の得点を70%に、また平常の学習状況を30%として100点満点で評価する。 2.試験終了後に補講授業を受講し、課題を提出することにより評価に加点することが出来る。ただし、この場合の評定はCとする。 3.平常の学習状況は、臨時試験の成績、実習の成績、出席の状況及び平素の学習態度を総合して行う。 4.各科目の評価は、おおむね次の基準で評定する。 100点から85点まで 評定A 高い程度に学習目標を達成し、平素の成績が優秀なもの 84点から70点まで 評定B 学習目標を達成し、平素の成績が優良なもの 69点から60点まで 評定C おおむね学習目標を達成し、平素の成績が良好なもの 59点から40点まで 評定D 学習目標の達成の度合いが不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの 39点以下 評定E 学習目標の達成の度合いが著しく不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの 5.評定は、各期の終わりに行う。ただし、通年で履修する科目は、前期終了時に中間評定を行い、後期終了時に中間評定と後期評価を総合してその科目の評定とする。 6.各期の成績は、保護者または保証人へ通知する。
卒業・進級の認定基準
<p>(概要) 本校の定める教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められ、所定の修業年限以上在学し、課程を修了したものには、卒業判定会議をへて校長が卒業を認定する。 また、卒業の認定した者は、専門士としての称号を授与する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>入学前面談(三者面談)を実施し、入学後の指導に役立てる。 入学後についても、三者面談を実施し、家庭と一緒に学生を育てていく。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） 社会生活学科			
令和3年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
2人 (100.0%)	0人 (0.0%)	2人 (100.0%)	0人 (0.0%)
(主な就職、業界等) 就労継続支援A型事業所一步一步、就労継続支援A型事業所ぴーかーぶー			
(就職指導内容) 三者面談、個人面談、求人票紹介、就職活動指導など			
(主な学修成果(資格・検定等)) 漢字検定、ワープロ検定、表計算検定、介護初任者研修など			
(備考) (任意記載事項)			

中途退学の現状 社会生活学科		
令和3年度当初在学者数	令和3年度の途中における退学者の数	中退率
7人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由) 中途退学者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人面談、保護者面談の実施。日常から学生とコミュニケーションを取っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士			
文化・教養		専門課程	総合ゲーム学科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
2年	昼	2,040 単位時間	単位時間	2,210 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
2,210 単位時間/単位								
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40人		0人	0人	9人	8人	17人		

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
概要) <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目については、シラバスに「授業の目的」「各回のテーマ、授業内容を明記した授業計画」「関連科目及び注意」「成績評価の方法」「教科書・問題集」「受講上の注意事項」の項を設け、学内サーバー・ホームページにおいて、本学生及び一般の方も閲覧できるように公表する。 ・シラバスには学期が始まる前にその授業科目の教育目標を提示する。 各教員がシラバスを適正に作成しているかどうかについては、教務部でチェックを行い、副校長に報告する形にしている。

成績評価の基準・方法			
(概要)			
1.成績の評価は、試験の成績と平常の学習状況を総合して行う。 この場合、試験の得点を70%に、また平常の学習状況を30%として100点満点で評価する。			
2.試験終了後に補講授業を受講し、課題を提出することにより評価に加点することが出来る。ただし、この場合の評定はCとする。			
3.平常の学習状況は、臨時試験の成績、実習の成績、出席の状況及び平素の学習態度を総合して行う。			
4.各科目の評価は、おおむね次の基準で評定する。			
100点から85点まで 評定A 高い程度に学習目標を達成し、平素の成績が優秀なもの			
84点から70点まで 評定B 学習目標を達成し、平素の成績が優良なもの			
69点から60点まで 評定C おおむね学習目標を達成し、平素の成績が良好なもの			
59点から40点まで 評定D 学習目標の達成の度合いが不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの			
39点以下 評定E 学習目標の達成の度合いが著しく不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの			
5.評定は、各期の終わりに行う。ただし、通年で履修する科目は、前期終了時に中間評定を行い、後期終了時に中間評定と後期評価を総合してその科目の評定とする。			
6.各期の成績は、保護者または保証人へ通知する。			
卒業・進級の認定基準			
(概要) 本校の定める教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められ、所定の修業年限以上在学し、課程を修了したのものには、卒業判定会議をへて校長が卒業を認定する。 また、卒業の認定した者は、専門士としての称号を授与する。			
学修支援等			
(概要)			
入学前面談(三者面談)を実施し、入学後の指導に役立てる。 入学後についても、三者面談を実施し、家庭と一緒に学生を育てていく。			
卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載) 総合ゲーム学科			
令和3年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (100.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
(主な就職、業界等) 情報処理関連企業、ゲーム会社など			
(就職指導内容) 三者面談、個人面談、求人票紹介、就職活動指導など			
(主な学修成果(資格・検定等)) ワープロ検定、表計算検定、介護初任者研修など			
(備考) (任意記載事項) 卒業生なし			

中途退学の現状 総合ゲーム学科		
平成3年度当初在学者数	平成3年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由) 退学者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人面談、保護者面談の実施。日常から学生とコミュニケーションを取っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
文化・教養		専門課程	社会生活専攻科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	1,020 単位時間	136 単位時間	952 単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			1,088 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
10人		0人	0人	9人	13人	22人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目については、シラバスに「授業の目的」「各回のテーマ、授業内容を明記した授業計画」「関連科目及び注意」「成績評価の方法」「教科書・問題集」「受講上の注意事項」の項を設け、学内サーバー・ホームページにおいて、本学生及び一般の方も閲覧できるように公表する。 ・シラバスには学期が始まる前にその授業科目の教育目標を提示する。 <p>各教員がシラバスを適正に作成しているかどうかについては、教務部でチェックを行い、副校長に報告する形にしている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.成績の評価は、試験の成績と平常の学習状況を総合して行う。 この場合、試験の得点を70%に、また平常の学習状況を30%として100点満点で評価する。 2.試験終了後に補講授業を受講し、課題を提出することにより評価に加点することが出来る。ただし、この場合の評定はCとする。 3.平常の学習状況は、臨時試験の成績、実習の成績、出席の状況及び平素の学習態度を総合して行う。 4.各科目の評価は、おおむね次の基準で評定する。 <p>100点から85点まで 評定A 高い程度に学習目標を達成し、平素の成績が優秀なもの 84点から70点まで 評定B 学習目標を達成し、平素の成績が優良なもの 69点から60点まで 評定C おおむね学習目標を達成し、平素の成績が良好なもの 59点から40点まで 評定D 学習目標の達成の度合いが不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの 39点以下 評定E 学習目標の達成の度合いが著しく不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの</p> <ol style="list-style-type: none"> 5.評定は、各期の終わりに行う。ただし、通年で履修する科目は、前期終了時に中間評定

<p>を行い、後期終了時に中間評定と後期評価を総合してその科目の評定とする。 6.各期の成績は、保護者または保証人へ通知する。</p>			
<p>卒業・進級の認定基準</p> <p>(概要) 本校の定める教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められ、所定の修業年限以上在学し、課程を修了したのものには、卒業判定会議をへて校長が修了を認定する。 また、卒業の認定した者は、専門士としての称号を授与する。</p>			
<p>学修支援等</p> <p>(概要) 入学前面談(三者面談)を実施し、入学後の指導に役立てる。 入学後についても、三者面談を実施し、家庭と一緒に学生を育てていく。</p>			
<p>卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載) 社会生活専攻科 令和3年度</p>			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
<p>(主な就職、業界等) 清掃・製造・販売・介護業界など</p>			
<p>(就職指導内容) 三者面談、個人面談、求人票紹介、就職活動指導など</p>			
<p>(主な学修成果(資格・検定等)) ワープロ検定、表計算検定、介護初任者研修など</p>			
<p>(備考)(任意記載事項) 卒業生なし</p>			

<p>中途退学の現状 社会生活専攻科</p>		
令和3年度当初在学者数	令和3年度の途中における退学者の数	中退率
0.0人	0.0人	0.0%
<p>(中途退学の主な理由) 退学者なし</p>		
<p>(中退防止・中退者支援のための取組) 本人面談、保護者面談の実施。日常から学生とコミュニケーションを取っている。</p>		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		専門課程	音楽療法学科3年制	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3年	昼	3,060 単位時間	374 単位時間	2,686 単位時間			
			3,060 単位時間				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
30人		0人	0人	9人	8人	17人	

カリキュラム (授業方法及び内容、年間の授業計画)
<p>概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業科目については、シラバスに「授業の目的」「各回のテーマ、授業内容を明記した授業計画」「関連科目及び注意」「成績評価の方法」「教科書・問題集」「受講上の注意事項」の項を設け、学内サーバー・ホームページにおいて、本学生及び一般の方も閲覧できるように公表する。 ・シラバスには学期が始まる前にその授業科目の教育目標を提示する。 <p>各教員がシラバスを適正に作成しているかどうかについては、教務部でチェックを行い、副校長に報告する形にしている。</p>
成績評価の基準・方法
<p>(概要)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.成績の評価は、試験の成績と平常の学習状況を総合して行う。 この場合、試験の得点を70%に、また平常の学習状況を30%として100点満点で評価する。 2.試験終了後に補講授業を受講し、課題を提出することにより評価に加点することが出来る。ただし、この場合の評定はCとする。 3.平常の学習状況は、臨時試験の成績、実習の成績、出席の状況及び平素の学習態度を総合して行う。 4.各科目の評価は、おおむね次の基準で評定する。 100点から85点まで 評定A 高い程度に学習目標を達成し、平素の成績が優秀なもの 84点から70点まで 評定B 学習目標を達成し、平素の成績が優良なもの 69点から60点まで 評定C おおむね学習目標を達成し、平素の成績が良好なもの 59点から40点まで 評定D 学習目標の達成の度合いが不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの 39点以下 評定E 学習目標の達成の度合いが著しく不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの 5.評定は、各期の終わりに行う。ただし、通年で履修する科目は、前期終了時に中間評定を行い、後期終了時に中間評定と後期評価を総合してその科目の評定とする。 6.各期の成績は、保護者または保証人へ通知する。
卒業・進級の認定基準
<p>(概要) 本校の定める教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められ、所定の修業年限以上在学し、課程を修了したのものには、卒業判定会議をへて校長が卒業を認定する。 また、卒業の認定した者は、専門士としての称号を授与する。</p>
学修支援等
<p>(概要)</p> <p>入学前面談(三者面談)を実施し、入学後の指導に役立てる。 入学後についても、三者面談を実施し、家庭と一緒に学生を育てていく。</p>

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） 音楽療法学科 3 年制			
令和 3 年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
1 人 （ 100.0%）	1 人 （ 100.0%）	0 人 （ 0.0%）	0 人 （ 0.0%）
（主な就職、業界等） 社会福祉法人千歳いずみ学園			
（就職指導内容） 三者面談、個人面談、求人票紹介、就職活動指導など			
（主な学修成果（資格・検定等）） 保育士、介護初任者研修など			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状 音楽療法学科 3 年制		
令和 3 年度当初在学者数	令和 3 年度の途中における退学者の数	中退率
1 人	0 人	0.0%
（中途退学の主な理由） 中途退学者なし		
（中退防止・中退者支援のための取組） 本人面談、保護者面談の実施。日常から学生とコミュニケーションを取っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士	
医療		専門課程	音楽療法士・セラピスト養成学科	○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2 年	昼	2,040 単位時間	306 単位時間		1,904 単位時間	
			2,210 単位時間			
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
20 人		0 人	0 人	9 人	8 人	17 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
概要） ・授業科目については、シラバスに「授業の目的」「各回のテーマ、授業内容を明記した授業計画」「関連科目及び注意」「成績評価の方法」「教科書・問題集」「受講上の注意事項」の項を設け、学内サーバー・ホームページにおいて、本学生及び一般の方も閲覧できるように公表する。 ・シラバスには学期が始まる前にその授業科目の教育目標を提示する。 各教員がシラバスを適正に作成しているかどうかについては、教務部でチェックを行い、

副校長に報告する形にしている。			
成績評価の基準・方法			
(概要)			
1.成績の評価は、試験の成績と平常の学習状況を総合して行う。 この場合、試験の得点を70%に、また平常の学習状況を30%として100点満点で評価する。			
2.試験終了後に補講授業を受講し、課題を提出することにより評価に加点することが出来る。ただし、この場合の評定はCとする。			
3.平常の学習状況は、臨時試験の成績、実習の成績、出席の状況及び平素の学習態度を総合して行う。			
4.各科目の評価は、おおむね次の基準で評定する。			
100点から85点まで 評定A 高い程度に学習目標を達成し、平素の成績が優秀なもの			
84点から70点まで 評定B 学習目標を達成し、平素の成績が優良なもの			
69点から60点まで 評定C おおむね学習目標を達成し、平素の成績が良好なもの			
59点から40点まで 評定D 学習目標の達成の度合いが不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの			
39点以下 評定E 学習目標の達成の度合いが著しく不十分で、平素の成績が良好とは認められないもの			
5.評定は、各期の終わりに行う。ただし、通年で履修する科目は、前期終了時に中間評定を行い、後期終了時に中間評定と後期評価を総合してその科目の評定とする。			
6.各期の成績は、保護者または保証人へ通知する。			
卒業・進級の認定基準			
(概要) 本校の定める教育指導計画にしたがって授業科目を履修し、その成果が満足できると認められ、所定の修業年限以上在学し、課程を修了したものには、卒業判定会議をへて校長が卒業を認定する。			
また、卒業の認定した者は、専門士としての称号を授与する。			
学修支援等			
(概要)			
入学前面談(三者面談)を実施し、入学後の指導に役立てる。			
入学後についても、三者面談を実施し、家庭と一緒に学生を育てていく。			
卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載) 音楽療法士・セラピスト養成学科			
令和3年度			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
(主な就職、業界等)			
高齢者施設、放課後児童サービス、病院など			
(就職指導内容)			
三者面談、個人面談、求人票紹介、就職活動指導など			
(主な学修成果(資格・検定等))			
保育士、介護初任者研修など			
(備考)(任意記載事項)			
卒業生なし			

中途退学の現状 音楽療法士・セラピスト養成学科		
令和3年度当初在学者数	令和3年度の途中における退学者の数	中退率
0人	0人	0.0%
(中途退学の主な理由) 退学者なし		
(中退防止・中退者支援のための取組) 本人面談、保護者面談の実施。日常から学生とコミュニケーションを取っている。		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
情報システム科	200,000 円	360,000 円	435,000 円	
研究科	0 円	300,000 円	100,000 円	
総合ゲーム学科	200,000 円	360,000 円	435,000 円	
社会生活学科	200,000 円	360,000 円	435,000 円	
社会生活学科専攻科	200,000 円	360,000 円	435,000 円	
音楽療法学科3年制	200,000 円	360,000 円	435,000 円	
音楽療法士・セラピスト養成学科	200,000 円	360,000 円	435,000 円	
修学支援 (任意記載事項)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.iga.ac.jp ホームページにより公開		
学校関係者評価の基本方針(実施方法・体制) 学校関係者評価委員会において委員の方々に 2021 年度学校自己評価に基づき評価して頂く。委員には事前に 2021 年度学校自己評価を配布した上で、学校関係者評価委員会で意見・要望を聞き取り。結果に対しては速やかに改善策を講じ、組織的・継続的に、実社会に応じた学校運営や教育課程の編成・実施に取り組んで行く。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
学校法人布川学園 理事長 布川 耕吉	2 年	学校法人理事長
株式会社ほくていホールディングス 代表取締役会長 加藤 欽也	2 年	企業経営者
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.iga.ac.jp/ ホームページにより公開		
第三者による学校評価 (任意記載事項)		

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法)

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	池上学院グローバルアカデミー専門学校
設置者名	学校法人 池上学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		一人	一人	一人
内 訳	第Ⅰ区分	一人	一人	
	第Ⅱ区分	0人	0人	
	第Ⅲ区分	0人	0人	
家計急変による支援対象者（年間）				0人
合計（年間）				一人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	0人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。） 、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	0人	0人	0人
G P A等が下位4分の1	0人	0人	0人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	0人	0人	0人
計	0人	0人	0人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。